

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

佐賀県 武雄市

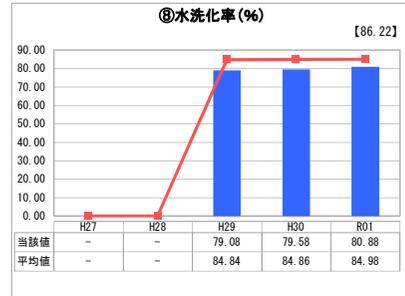
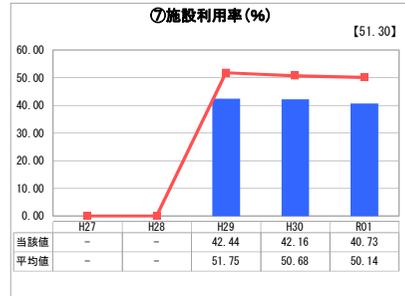
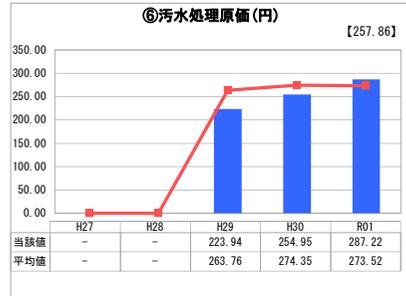
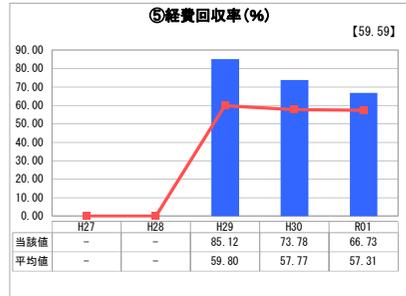
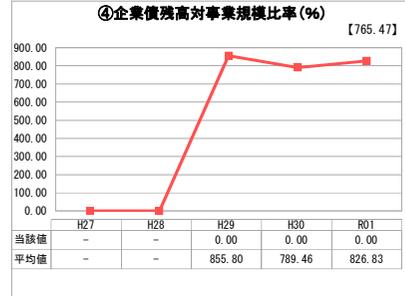
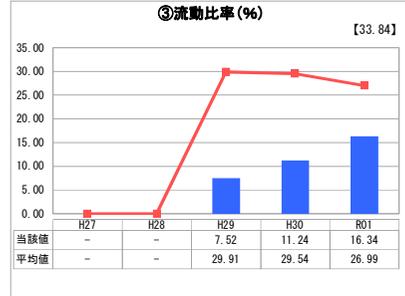
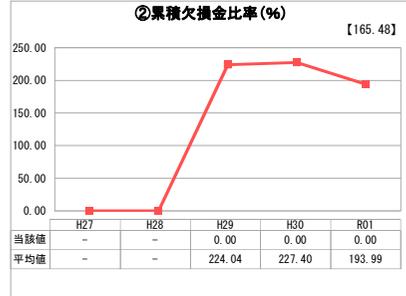
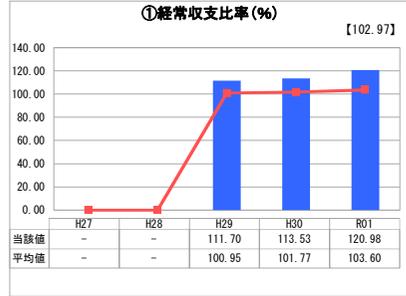
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	48.83	19.49	98.04	4,180

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
48,854	195.40	250.02
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
9,479	5.34	1,775.09

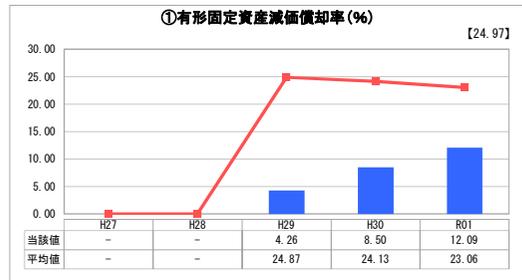
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- 「経常収支比率」は、前年度と比べて増であるが、これは減価償却費の大幅減によるものである。
- 「累積欠損比率」は、前年度と変わらず0であるが、近年収入が微減傾向にあるのに対し費用が上昇傾向にあるため、将来に向けて検討が必要である。
- 「流動比率」は、前年度と比べて増加しており、企業債償還額としてもピーク近くにある。今後、市の財政状況的に繰入が厳しくなることも考えられるため、将来に向けての検討が必要。
- 「経費回収率」は、前年度に比べて減少しているが、類似団体平均と比較した場合は、未だ良好と言える。ただし、近年収入が微減傾向にあるのに対し費用が上昇傾向にあるため、将来に向けての検討が必要。
- 「汚水処理原価」は、前年度と比べて増であり、類似団体平均と比べても高くなっている。機器の老朽化による不具合への緊急対応や修繕の増加に伴い、維持管理費が増加傾向にあるため、将来に向けての検討が必要。
- 「施設利用率」は、節水型トイレの普及や区域内人口減少の影響を受け、処理汚水量が減少しているため、年々減少する傾向にある。
- 「水洗化率」は、前年度と比べて大きな変化はないが、人口減少の影響が表れて来ている。

### 2. 老朽化の状況について

当市の農業集落排水事業は、平成11年から開始しており、市内8か所の処理施設は設置後11～20年を経過する。

- 「有形固定資産減価償却率」は、類似団体平均と比べてかなり低く、施設的には比較的新しいと言える。今後とも長寿命化を図りながら、適正管理に努める。
- 「管渠老朽化率」および「管渠改善率」は、管渠の耐用年数が50年であることから、未だ改修には至っておらず、ともに0となる。

### 全体総括

平成29年度より公営企業法の適用を受けて、分析3年目となり、ある程度の傾向が見えて来た。類似団体平均と比べた場合、比較的良好な経営状態にあるといえる。

下水道事業の健全経営を継続できるよう、経営戦略に基づいた長期的な視点で判断・対応していくことが重要と考える。

特に施設利用率の向上は、経営健全化の鍵となるものなので、施設の処理能力や処理汚水量の推移を勘案しながら、施設の統廃合や広域化等を含め、総合的に見直しを図っていく必要があると考える。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。